

① 省エネルギー、省資源ライフ

日本の発電電力構成比を見ると、石炭・石油・天然ガスを燃料とする火力発電が60%を占めており、特に夏場は冷房機器の使用によりフル稼働します。燃料を燃やして熱エネルギーを電力に変換させているのですから結果としてガスの排出量も増えることになります。冷房は28度、暖房は20度に設定することで、需要電力を引き下げることができます。

電気製品も省電力型のものが普及してきていますので、買い替えのときはこの点にも留意していただきたいものです。また可燃ごみを減らすことにより、焼却による排ガス量も抑えることができます。身の回りに溢れている水も実は限りある資源です。地球の水は97%は海水で私たちが利用できる淡水は残り3%にすぎません。これらの淡水を工業用・農業用・生活用に割り振っているのです。お洗濯のときにお風呂の残り湯を使うことも省資源になるのです。

雨水の貯蔵タンクや雨水利用施設を設置して、トイレや庭園の水まきに利用することも、生産コストのかかる上水道の節約になります。

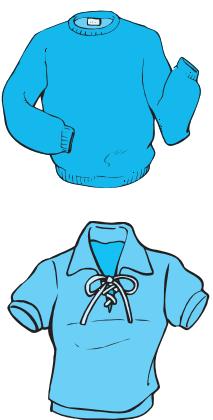
② 衣 服



はノーネクタイ、通気性のいい物を着用して冷暖房機にあまり頼らずにすむスタイルで、職場や自宅で過ごしましょう。

④ 仕 事

書類は紙ですから当然原料となる木の伐採が必要になります。日本で使用される紙の原料は外国産がほとんどですが、温暖化は地球規模で起きています。紙を使わないパソコンを使った情報の記録や、交換が推奨されています。



⑥ 社会への働きかけ、社会活動への参加

環境ボランティアとして将来を担う今の子どもたちに自然環境を守ることの大切さを教えたり、植林や、景観を汚す不法に捨てられたごみの回収など多岐にわたっています。

また環境に配慮した製品などの優先的な購入なども現在、国や地方自治体が率先して取り組んでいます。



⑤ 交 通・レ ジ ャ 1

自動車もガソリン等で走る以上ガスを排出します。平成17年の排ガス規制以来、自動車メーカーは低燃費で排ガス濃度の低い物を開発しています。車選びは経済的にもこういった車両を選ぶほうがいいでしょう。

通勤は遠くであれば公共交通機関。近場であれば歩きか自転車で。公共交通機関を利用する場合は駅からの歩き（運動）が必要になりますがメタボリック症候群が成人の約半分といわれる現在肥満解消にも役立ちます。

③ 食 ベ 物

地元でとれた野菜、米などを食卓に並べることも省エネにつながります。国産とはいえども、遠方でできた物を手に入れるために、トラックなどを使用されます。その分の燃料消費による排ガスと、なによりコストがその分価格に反映されるため割高になってしまいます。また余った食材で簡単な料理を作る工夫をすることも生ごみ（可燃ごみ）を減らすことができますし、工夫がいりますがコンポストとして肥料を作り、家庭菜園を楽しむこともできます。



以上が国民一人ひとりに実践できるものとして、環境省が提唱するライフスタイルです。環境そして資源を守るために紙、ペットボトルなどのリサイクルにはよりコストがかかるのが現実です。しかし私たちは地球という星で、そこに存在する自然界の微妙なバランスの中でしか生きていけないのもはつきりとした現実です。

みなさまも節電・省エネ・リサイクルを心がけ温暖化防止にご協力ください。

省エネ推進と 温暖化防止のために

「温室効果ガス」という言葉をよく耳にします。地球の温室効果とはどういうことでしょう。

温室効果を簡単に体験する方法があります。みなさんの近くにあるビニールハウスを閉めきつて中に入つてみましょう。太陽の光に暖められたハウスの地面の熱がビニールによって外へ出て行きませんので、時間が経つほどドンドン室温が上がりつて行き、とても長時間中にいられるものではありません。このビニールの役目を果たすのが二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスです。

光にはエネルギーがあり、地球は太陽の光によつて暖められています。光は地表と海水を温め（これら一つが原因して気温・気候が生まれる）再び地球の外に出でていこうとします。このとき熱を帶びた地球は「赤外線」を発します。赤外線については暗視カメラなどで電化製品に応用されていますのでご存知の方も多いでしょう。地球から出て行く熱はこの赤外線となつて外に出て行こうとするのですが、実は温室効果ガスはこの赤外線を吸収しやすく、外に出て行くはずのエネルギーを地球空間に閉じ込めてしまうのです。

つまり太陽から受けるエネルギーと地球の外に逃げていくエネルギーのバランスが取れなくなつて現れているのです。

多久市の取り組み

多久市では、平成18年3月に「多久市地球温暖化実行計画」を策定しました。この事業は市役所が行う事務事業

に対して「環境負荷の低減、温室効果ガスの排出規制取り組みを実践していくもので、計画の目標は平成18年度から平成22年度までの5年間で、温室効果ガスの排出量を平成16年度比で約6%削減することです。実施に当たつては次の省エネルギーの項目を重点に取り組み、目標達成のため努力しています。

○平成18年度 6千082トン
マイナス509トン（7・72%の削減、当初の目標は6%）を達成しました。

○平成16年度 6千591トン
←
マイナス509トン（7・72%の削減、当初の目標は6%）を達成しました。

509トンのガスとは漠然としてますので、509トンの削減ガスを全て二酸化炭素として仮定してみます。

二酸化炭素を气体から固体になると、みなさんが良く知つてゐる冷たいドライアイスになります。その体積は750分の1になり、1立方mのドライアイス約330個分になります。これは学校にある25m³ホールの中にいっぱいに敷き詰められるくらいの量です。これは

温室効果ガス総排出量の現状

※比較のため「温室効果ガス総排出量の算定システム（表計算ソフトウェア版Ver.3・平成18年3月改正）」で積算し、かつ、民営化により恵光園、清掃センターごみ収集車の分は除いて積算していますので、多久市のホームページの地球温暖化対策実行計画に係る温室効果ガス総排出量とは異なる数値であることをご了承ください。

- ①電気・燃料等の使用の抑制
- ②公用自動車の適正な利用・管理における環境負荷の軽減
- ③ごみの減量化およびリサイクルの推進
- ④用紙類の使用の削減など



環のくらし

では次に国民・事業者のみなさんに對し、環境省が提唱する「環のくらし」について触れてみたいと思います。簡単に言うと省エネ・リサイクルの実践ということです。

今取り組まなければならない事はどういうものなのでしょう。

目標達成の主な要因としては、

- ①ごみの分別による廃プラスチックの削減
- ②施設の統合による電気の使用量の削減
- ③昼休みの電気消灯、用紙の両面使用等のこまめな節約などが成果をあげています。